

★「京都市未来こどもプラン」に掲げた重点施策等の平成25年度における主な取組

《第1章》市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり

● 001 「子どもを共に育む京都市民憲章」の普及推進

＜予算額：6,000千円＞

「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」（平成23年4月施行）に基づき、「京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会」の開催や毎年度の「行動指針」の策定、「実践推進者表彰」の実施、「憲章の日」（毎年2月5日）を契機とした啓発活動等を通じて、憲章の理念を市民生活の隅々まで浸透させ、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で実践行動につながるよう普及促進を図った。

【保健福祉局 児童家庭課，教育委員会事務局 生涯学習部，全局・区】

《第2章》子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり

● 009 DVに悩む男性のための電話相談及び教職員を対象としたDV予防講座

(009 DV（ドメスティック・バイオレンス）対策の充実)

＜予算額：1,000千円＞

男性被害者や加害者の相談の受け皿として、男性カウンセラーによる「男性のためのDV電話相談」専用窓口を開設する。

また、幼稚園、保育所（園）から大学まで広く教育、保育関係者に対して、DVに関する専門的な内容の講義、教育、保育現場での相談事例についての検討や対応方法の助言を行う連続講座を実施する。講座で得た知識を指導現場で実践活用してもらうことで、若年層に対するDV及びデートDVの予防につなげる。

【文化市民局 男女共同参画推進課】

● 014 児童相談所業務評価システムの構築・運営

(010 児童虐待対応への評価)

＜予算額：700千円＞

児童虐待対策推進のため、児童虐待の早期発見・早期対応等、児童相談所の適切な運営の確保に向けて、定期的に点検・評価を行うためのシステムを構築する。

【保健福祉局 児童家庭課】

● **017 一時保護児童の学習環境の充実**

(017 児童福祉センターにおける取組の強化)

＜予算額：6,900千円＞

原則外出を認めていないため、事実上通学不能となっている一時保護所で保護している児童の学習を保障するため、これまで学生ボランティア及び職員によって行っていた学習指導について、平成25年度からは新たに学習指導員（教員経験者の非常勤職員）を2名配置し、在籍校との緊密な連携を図りつつ、子どもの状況や特性、学力に配慮した指導を行うなど、学習環境の充実に努める。

【保健福祉局 児童福祉センター】

● **019 先天性代謝異常等検査**

(019 母子保健事業の実施)

＜予算額：34,310千円＞

新たな先天性代謝異常等の疾患を早期発見し、早期治療につなげるため、平成25年4月から、検査対象疾患を6疾患から19疾患に拡大する。検査は、保護者が希望する場合、医療機関で新生児から微量の血液を採取し、委託検査機関に送付、検査機関において検体分析することにより行う。

【保健福祉局 保健医療課】

● **024 就学支援シートの活用**

(024 切れ目のない支援体制の充実)

＜予算額：500千円＞

保育所（園）や幼稚園等の就学前施設から小学校へ、配慮・支援の情報を円滑に引き継ぎ、小学校での指導・支援の一層の充実に努める。

【教育委員会事務局 総合育成支援課】

● **025, 027 放課後児童デイサービス等設置促進事業**

(025 療育支援体制の充実, 027 総合支援学校に在籍する児童・生徒への支援)

＜予算額：20,000千円＞

利用者のニーズが高い児童発達支援、放課後等デイサービスを行う事業所を開設する際に必要となる事業所の借上げに要する初期経費や初度調弁費、その他必要な改修費の一部を助成する設置促進事業について、実施箇所を拡充する。

【保健福祉局 障害保健福祉推進室】

● **026 障害児保育対策事業**

(026 障害児保育の充実)

< 予算額 : 570,567千円 >

民間保育園における障害児判定について、これまで保育園から提出された書類審査により行ってきたが、平成25年度から、心理士等専門職が保育園を訪問調査（行動観察）し、より実態に見合った判定をすることで、より保育の困難性に応じた保育士加配を行い、1人ひとりの健やかな成長を目指した障害児保育の充実を図る。

【保健福祉局 保育課】

● **030 「ほほえみネット」(障害児放課後支援・通学支援)の実施**

(030 家族の養育等の支援)

< 予算額 : 1,279,262千円 >

現在実施している障害児者の外出支援を行う移動支援事業（ガイドヘルプ）を活用し、平成25年10月から新たに障害児放課後支援・通学支援を実施し、障害児がいる世帯の生活の安定を図る。放課後支援としては、小学5・6年生及び中学生の障害児を対象に、2～3人のグループ単位でヘルパーによる放課後の見守り支援を行う。通学支援は、保護者が就労又は疾病等であるひとり親世帯を対象に、通学時の送迎支援を行う。

【保健福祉局 障害保健福祉推進室】

《第3章》次世代をはぐくむすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり

● **042 子育て支援活動いきいきセンター(つどいの広場)の充実**

< 予算額 : 132,087千円 >

子育て中の親の不安や負担感、孤立感を緩和し、安心して子育てができる環境を整備するため、特に乳幼児の親子が気軽に集い、交流できる場所を新たに3箇所開設する。（既設と合わせ市内計32箇所）

（参考）数値目標設定事業 20箇所（平成21年度）→35箇所（平成26年度）

【保健福祉局 児童家庭課】

● **061 梅小路公園の拡張再整備**

(061 主要公園の運営)

< 予算額 : 350,000千円 >

梅小路公園を拡張し、子どもが伸び伸びと遊べる2つの広場（「すざくゆめ広場（仮称）」及び

「市電ひろば」)を新設する。(平成26年1月開園予定)

「すざくゆめ広場(仮称)」には、芝生広場や市内最大規模の大型遊具、カフェを設置する。
両広場には乗降場を設置し、広場の間を最新鋭の蓄電池を動力源とする車両に改良したチンチン電車を走行させる。

【建設局 緑政課】

● **061 宝が池公園新景観創造事業**

(061 主要公園の運営)

<予算額:3,000千円>

宝が池公園が「次世代に引き継ぐ新しい桜の名所」となるよう、新たに桜を植樹できるエリアの整備を行い、桜による新景観を創造するため、まとまった本数の桜を植樹できるエリアの整備を行う。平成25年度は、宝が池周辺において測量・地質調査等を実施し、植樹場所を検討する。

【建設局 緑政課】

● **061 宝が池スポーツ広場グラウンド改修**

(061 主要公園の運営)

<予算額:63,600千円>

子どもたちのスポーツ活動の拠点である宝が池スポーツ広場グラウンドの改修工事を行う。

【教育委員会事務局 体育健康教育室】

● **069 新「京都市動物園構想」の推進**

(069 動物園の再整備)

<予算額:1,087,200千円>

平成21年度策定の共汗でつくる新「京都市動物園構想」に基づき、整備を推進する。

平成25年度実施計画

- ・「東エントランス・ツシマヤマネコ繁殖施設」整備(平成25年7月オープン予定)
- ・「ゴリラ舎」設計・整備(平成26年春オープン予定)
- ・「学習・利便施設」設計・整備(平成27年春オープン予定)
- ・「京都の森」設計・整備(平成27年夏オープン予定)
- ・「管理等・病院・救護センター」整備(平成25年6月供用開始)
- ・「ゾウの森」等実施設計

【文化市民局 動物園】

● **072 学校安全の手引改定・配布**

(072 地域ぐるみの子どもの安全確保の取組の推進)

＜予算額：700千円＞

安全教育・安全管理についての配慮事項等をまとめ、学校安全の推進を図る。

【教育委員会事務局 体育健康教育室】

● **市有建築物の耐震改修**

＜予算額：43,700千円＞

「京都市建築物耐震改修促進計画」（平成19年7月策定）に基づき、平成27年度末の耐震化率90%を目指し、市有建築物のうち、耐震診断の結果「耐震性なし」とされている施設について、改修内容や実施事業への影響等を総合的に調整しつつ、着手可能な施設から順次、耐震化に向けた改修及び設計を行う。

平成25年度実施箇所

- ・京都市久世保育所（改修）
- ・京都市南保育所（改修，継続）
- ・京都市北合同福祉センター（紫野障害者授産所，紫野児童館，北老人福祉センター，北図書館の複合施設）（設計）
- ・京都市吉田児童館（設計）
- ・京都市四宮児童館（設計）

【保健福祉局 児童家庭課，障害保健福祉推進室】

● **民間社会福祉施設耐震化等対策事業**

＜予算額：81,200千円＞

民間社会福祉施設に，専門家を派遣し，耐震化の必要性や手続等についてアドバイスを行う「耐震アドバイザー派遣事業」を平成24年度から事業開始し，民間保育園への派遣を行っている。平成25年度は新たに保育園以外の民間社会福祉施設（対象総数47箇所）にも対象を拡大する。

「民間社会福祉施設耐震診断助成事業」について，新たに，非特定建築物を対象とするとともに，100万円の補助限度額を撤廃する。また，耐震化を要する施設が多く残っている民間保育園については，耐震診断の事業者負担の軽減を図るため，子育て支援に資する事業実施に必要な財源を充てることを目的とする子育て支援事業基金を活用する（民間保育園36箇所，その他の民間社会福祉施設4箇所）。

【保健福祉局 保健福祉総務課，保育課】

● 野菊荘大規模改修整備事業

＜予算額：41,600千円＞

築32年が経過し、施設の老朽化が顕著であり、耐震性性能が現行基準を満たしていない、母子生活支援施設野菊荘の大規模改修及び耐震化工事について、運営法人である社会福祉法人宏量福祉会に対して助成を行う。

【保健福祉局 児童家庭課】

● 075 待機児童ゼロへの取組（保育所整備助成、小規模保育事業等の開始）

（075 施設整備による保育所定員（入所児童数）の拡大）

＜予算額：719,552千円＞

依然保育需要の増加が見込まれる地域において、保育所の新設を行い保育所定員の拡大を図るとともに、耐震化が必要な施設について耐震改修を行い、395名の定員増を確保する。

- ・西大路保育園（仮称）、新設、下京区、定員90名
- ・清明保育園（仮称）、新設、右京区、定員90名
- ・川西保育園（仮称）、新設、西京区、定員90名
- ・熊千代会第二保育園（仮称）、新築【継続】、中京区、定員90名
- ・なかとみ保育園、老朽改築及び耐震化、山科区、定員90名→95名（26年度末）
- ・たちばな保育園、老朽改築及び耐震化【継続】、下京区、定員60名→90名
- ・柳辻保育園、耐震改修【継続】、山科区、定員220名→225名

また、特に待機児童の多い行政区（左京区及び右京区）において、府内初となるグループ型小規模保育事業（15名程度）と、保育所実施型家庭的保育事業（5名まで）を計4箇所を実施する。

【保健福祉局 保育課】

● 079 延長保育の拡充

（079 延長保育の実施箇所及び保育時間の拡大）

＜予算額：583,817千円＞

就労時間帯の多様化等による保育需要の増加に合わせ、延長保育実施保育所を188箇所から192箇所に拡充する。

（参考）数値目標設定事業 179箇所（21年度）→195箇所（26年度）

【保健福祉局 保育課】

● **080 一時保育の拡充**

(080 一時保育の実施箇所及び保育時間の拡大)

<予算額：152,683千円>

保護者の断続的・短時間就労に伴う一時的な保育（非定型）や、保護者の傷病などによる緊急時の保育（緊急一時）、保護者のリフレッシュを図るための保育といった様々な保育需要に対応できるよう、また、未就園児童への子育て支援サービスの提供という役割を果たすことができるよう、一時保育実施保育所を48箇所から50箇所に拡充する。

(参考) 数値目標設定事業 42箇所(21年度)→50箇所(26年度)

【保健福祉局 保育課】

● **085 病児保育（病後児併設型）事業**

(085 病後児保育の実施箇所及び実施機関の拡大並びに病児保育の実施)

<予算額：56,825千円>

現在病後児保育を実施している施設のうち1箇所を病児保育（病後児併設型）に転換する。（病後児保育4箇所、病児病後児併設型2箇所(24年度)→病後児保育3箇所、病児病後児併設型3箇所(25年度)）

【保健福祉局 保育課】

● **保育士等処遇改善臨時特例事業**

<予算額：550,000千円>

平成25年1月に示された国の平成24年度補正予算において、待機児童解消のため、保育士の確保を目的とした処遇改善を実施することとされた。民間保育所における保育士等の処遇改善を速やかに図るため、同事業を活用し、民間保育所に勤務する保育士等の給与水準の改善を行う保育所に対する補助を実施する。

【保健福祉局 保育課】

● **福祉人材確保対策事業**

<予算額：2,600千円>

市民により良い福祉サービスが提供される体制を確保するため、福祉人材の確保を積極的に支援する。

平成25年度実施予定

・保育所（保育士）、児童館（児童厚生員）就職フェアの開催

（本市及び保育園連盟・児童館学童連盟との共催）

- ・福祉職場の採用担当者等を対象とした研修事業の実施
- ・「福祉職場オープンウィーク」等の広報活動の実施

【保健福祉局 保育課，児童家庭課，長寿福祉課，障害福祉推進室】

● **100** 高等技能訓練促進費等事業及び自立支援教育訓練給付金事業の父子家庭への拡大

＜予算額：281,119千円＞

ひとり親家庭の親が，2年以上のカリキュラムの受講を必要とする看護師等の対象資格を取得するため，専門学校等で修業している場合，修業期間中に市民税非課税世帯で月額10万円の訓練促進費と5万円の入学支援修了一時金を，市民税課税世帯で月額7万5千円の訓練促進費と2万5千円の入学支援修了一時金を給付する「高等技能訓練促進費等事業」について，支給対象を，従前の母子家庭の母のみから父子家庭の父に拡大する。

また，ひとり親家庭の親の主体的な能力開発の取組を支援するため，対象講座（ホームヘルパー，栄養士，パソコン，医療事務講座等）の教育訓練受講のために本人が支払った費用の20％に相当する額（上限10万円，下限4千円）を支給する「自立支援教育訓練給付金事業」について，支給対象を，従前の母子家庭の母のみから父子家庭の父に拡大する。

【保健福祉局 児童家庭課】

● **103** ひとり親家庭等医療費支給事業（母子家庭等医療費支給事業の父子家庭への対象拡大） （103 母子家庭等医療費支給制度の推進）

＜予算額：1,219,399千円＞

母子家庭の児童及び母等に対し，医療費の一部を助成する「母子家庭等医療費支給事業」について，府市協調の下，平成25年8月から，父子家庭への対象拡大とともに，所得制限の見直しを行い，事業名称を「ひとり親家庭等医療費支給事業」に変更する。

【保健福祉局 地域福祉課】

《第4章》子どもを安心して生み健やかに育てることのできるまちづくり

● **137** 子ども保健医療相談・事故防止センター運営の充実（わが子を事故から守るプレママ・パパ教室

（137 子どもの事故防止と応急手当に関する取組の充実）

＜予算額：45,887千円＞

幼児の死亡原因の1位である「不慮の事故」を防止するため，子ども保健医療相談・事故防止センター（京・あんしん子ども館）において，平成25年度から新たに，妊婦やその家族を対象に「わが子を守るプレママ・パパ教室（仮称）」を開催し，妊娠期から安心安全な育児環境についての理解を深める。

《第5章》次代を担う子どもたちが心豊かに生きる力をはぐくむことができるまちづくり

● 182 学校図書館活用促進事業

(182 新「子ども読書活動推進計画」の推進)

＜予算額：73,400 千円＞

平成27年度までに司書資格等を有する「学校図書館運営支援員」を全校に派遣できるよう拡充を図る（平成24年度：78校→平成25年度：155校）。

また、京都市地域産材の「みやこ杣木」を使用し、学校図書館の備品整備を行う。

【教育委員会事務局 調査課，学校指導課】

● 182 「京都市子ども読書活動推進計画」の次期計画策定

(182 新「子ども読書活動推進計画」の推進)

＜予算額：3,736 千円＞

平成26年度から30年度までの5箇年を計画期間とする「第3次京都市子ども読書活動推進計画（仮称）」を，市民の意見を踏まえ策定する。

【教育委員会事務局 生涯学習部】

● 183 グローバルコミュニケーション力育成に向けた英語教育の充実

(183 小学校からの英語教育の推進)

＜予算額：208,533 千円＞

外国語を通じて，他の言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために，ネイティブスピーカーであるALTと教員とのチーム・ティーチングによる実践的な授業を充実することによって，「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信する力を養う。

平成25年度はALTを10名増員し（合計48名），研修の充実を図る。

【教育委員会事務局 学校指導課】

● **186 「古典の日」法制化を契機とした伝統文化体験の充実**

(186 伝統文化教育の推進)

＜予算額：56,874 千円＞

平成24年9月に施行された「古典の日に関する法律」の趣旨を踏まえ、伝統文化に親しみ、日本の心を伝える古典の振興に資するよう、児童配布教材の充実や専門家の学校への派遣など、学校教育活動における伝統文化体験の充実を図る。また、市立小学校4年生に配布している「ジュニア京都検定テキストブック」の古典に関する内容を充実する。

【教育委員会事務局 学校指導課、生涯学習部】

● **186 子どもたちの京都再発見事業**

(186 伝統文化教育の推進)

＜予算額：1,500 千円＞

次代の京都を担う子どもたちが、奥深い京都の魅力を知り、学び、楽しむことを通じて、京都に対する誇りを持ち、観光客を温かくおもてなしする気運を醸成するとともに、先人から預かった財産を大切に、世界へ伝え、未来に引き継いでいく。

多文化・他者への理解は、自国の文化に対する理解を深めてこそ生まれるものであり、我が国の文化の象徴、「日本人の心のふるさと」である京都を再発見することにより、国際社会で活躍する人材育成に繋げる。

平成25年度は、引き続き、次代を担う子どもたちが京都の魅力に触れる機会を充実するための取組として、冬休み期間中に京都の世界文化遺産を見学することができる「京都の小学6年生のための京都再発見カード」を市内小学校に通う小学6年生に配布する。

【産業観光局 観光MICE推進室】

● **住教育支援事業**

＜予算額：58,230 千円の内数＞

平成25年度京都市安心すまいづくり推進事業の一環として、学校（小・中・高）への出張授業、課外授業、教材の作成等を実施し、子どものすまいに関する興味を喚起し、より豊かな住生活や住環境を実現していく力を養うための支援を行う。

【都市計画局 住宅室住宅政策課】

● **188** ピアサポーター養成・派遣事業（子ども・若者総合支援事業の充実）

（188 子ども・若者・家庭の総合支援に向けた政策の融合）

＜予算額：1,500千円＞

ひきこもり状態にある子ども・若者の社会的自立の促進を図るため、より支援対象者に身近なひきこもり経験者や同世代の者が関わり、本人の思いや課題などを引き出す「ピアサポーター」の養成・派遣事業を実施する。

- ・ピアサポーターの養成

NPO等民間団体との協働により講座を開催し、10人程度を養成する。

- ・ピアサポーターの派遣

支援対象者1人当たり月2回程度派遣する。

- ・ひきこもり支援専門委員会の設置

ピアサポーターの養成に必要な基本プログラムの検討や派遣に当たってのケース検討等を行う。

【文化市民局 勤労福祉青少年課】

● **191, 192** スクールカウンセラーの配置拡大

（191 児童生徒等への支援・相談の実施, 192 不登校児童生徒に対する取組）

＜予算額：186,656千円＞

いじめや不登校をはじめとする、子どもが抱える課題の早期発見、早期対応や予防的な取組を推進するため、既に全校配置が完了している中学校、総合支援学校及び高等学校に加え、小学校についても平成24年度から4年計画で、スクールカウンセラーの配置拡大を進め、平成27年度までの全校配置を目指す。

【教育委員会事務局 生徒指導課】

● **195** 市立高校「かがやきプラン」～魅力あふれる学校づくり～

（195 普通科系高校における特色ある学校づくり）

＜予算額：55,000千円＞

京都市・乙訓地域公立高校の新たな教育制度導入に伴い、中学生はこれまで以上に自らの希望に応じた高校をより主体的に選べるようになるため、市立高校においては、高校生に求められる基礎・基本の学力の定着はもとより、一人一人の個性・能力の伸長につながる魅力ある教育活動の充実・発展を目指す。

【教育委員会事務局 学校指導課】

● **191, 192** スクールソーシャルワーカーの配置拡大

(191 児童生徒等への支援・相談の実施, 192 不登校児童生徒に対する取組)

＜予算額：12,651 千円＞

いじめや不登校等の教育課題に対し、これまでの学校の取組に加え、その背景にまで踏み込んだ対応や、児童相談所など関係機関との一体となった取組が求められていることから、社会福祉等の専門的な知識・技術を有するスクールソーシャルワーカーについて、平成27年度の配置人員倍増をめざし、計画的な配置拡大を行う。

【教育委員会事務局 生徒指導課】

● **200 総合教材ポータルサイトによる教育情報発信事業**

(200 教職員の資質・指導力向上に向けた取組)

＜予算額：92,000 千円＞

教職員の研修施設である総合教育センターで実施した研修映像や各学校における良質な公開授業等を収録し、指導主事による解説などを加えた映像研修資料を作成するとともに、授業で活用できる教材などと合わせて配信できるよう、「総合教材ポータルサイト」の機能充実を図る。

【教育委員会事務局 総合教育センター研修課】

● **201 学校体育館・プール等整備事業**

(201 学校施設の耐震補強の推進)

＜予算額：643,000 千円＞

小・中学校の体育館及びプールは、これまでから改築事業を実施しているが、改築に加えて避難施設や防災拠点（災害用水としての活用等）としての機能強化を図るため、毎年度各3校程度で、全面改修を推進する。

【教育委員会事務局 教育環境整備室】

● **201 学校施設の非構造部材等耐震化推進**

(201 学校施設の耐震補強の推進)

＜予算額：419,403 千円＞

学校施設における天井材、照明等の非構造部材の耐震化について、本市では約7割が完了しており、平成25年度から平成27年度の3箇年で、残る約3割についての計画的な改修を行う。また、生涯学習総合センターの耐震補強を行う。

【教育委員会事務局 教育環境整備室】

● **208 放課後まなび教室 全小学校区実施**

(208 放課後まなび教室の推進)

＜予算額：192,380 千円＞

市立小学校の児童を対象に，学校施設を活用し，地域・保護者・学生等の参画の下，放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実を図る。

(参考) 数値目標設定事業 全179小学校区（登録児童数 9,500 人）（21年度）
→全小学校区実施（登録児童数 10,500 人）（26年度）

【教育委員会事務局 生涯学習部】

● **207, 210 学童クラブ事業等の充実（児童館・学童保育所・放課後ほっと広場）**

(207 学童クラブ事業の充実 210 「放課後ほっと広場」の実施)

＜予算額：2,930,345千円＞

保護者のニーズに応えるため，平成25年度から，土曜日及び小学校の長期休業期間中の学童クラブ及び放課後ほっと広場の開始時刻を30分拡大する。

(実施時間 平成24年度：8時30分～18時30分→平成25年度：8時～18時30分)

【保健福祉局 児童家庭課】

● **207 地域学童クラブ事業の充実**

(207 学童クラブ事業の充実)

＜予算額：34,063千円＞

近隣に本市の学童クラブはないが，一定のニーズのある地域などにおける放課後児童対策として，新たに2クラブ（計12クラブ）に対して地域学童クラブ事業補助を実施する。

【保健福祉局 児童家庭課】

● **「京都市未来こどもプラン」次期計画の策定（子育て支援に関する市民ニーズ調査等）**

＜予算額：15,615 千円＞

平成27年度からを計画期間とする「京都市未来こどもプラン」の次期計画の策定に向けて，平成25年度は，「子育て支援に関する市民ニーズ調査」，「結婚と出産に関する意識調査」，「ひとり親家庭実態調査」，「母子保健に関する意識調査」，「思春期に関する意識調査」を実施する。

【保健福祉局 児童家庭課，保健医療課】